

Meeting Report



第88回日本胃癌学会総会

88th Annual Meeting of The Japanese Gastric Cancer Association

会期：2016年3月17～19日

会場：B-Con Plaza 別府国際コンベンションセンター(別府)

岡本 渉

国立研究開発法人国立がん研究センター先端医療開発センターゲノムトランスレーショナルリサーチ分野

2016年3月17～19日の3日間、公益財団法人がん研究会有明病院消化器センター長の佐野武会長による第88回日本胃癌学会総会が開催された。開催地は佐野会長の出身地である大分県杵築市に近い別府市ということで、佐野会長の故郷と本総会に対する深い思い入れが感じられる総会であった。本総会では、口演がプレナリーセッションとシンポジウムにほぼ集約されるかたちとなっており、並行して行われる口演は多くて3つまでという構成になっていた。これにより、「参加者全員が、なるべく同じ空間で発表と討論を聴き、知識と課題を共有する」(会長挨拶抜粋)ことができるように配慮され、普段の学会であれば化学療法に関する演題を渡り歩くのが常である腫瘍内科医の筆者も、久々に内視鏡や外科の演題を聴講することができた。一方で、ポスターセッションを充実させ、個別のテーマについては近い距離で十分な議論ができるよう配慮されていた。

本総会のテーマは「世界の胃癌、アジアの胃癌」であり、多くのシンポジウムやセッションが世界とアジアの比較をフィーチャーしたものであったが、病理・内視鏡診断領域、内視鏡・外科手術領域、化学療法領域のいずれにおいても、日本が古くから世界に先駆けて胃癌研究を進めてきたことが改めて認識された。化学療法領域に関しては、2日目

に「胃癌化学療法の展望：世界とアジア」と題したシンポジウムが、米国から1名、韓国から1名、日本から2名という演者構成で開催された。本シンポジウムの座長兼演者の Jaffer A. Ajani 先生(MD Anderson Cancer Center)からは、日本が中心となって行われた ToGA 試験によりヒト上皮成長因子受容体(HER2)陽性胃癌に対するトラスツズマブが global での承認を得られたことを例に挙げ、胃癌化学療法分野では、日本(アジア)が世界をリードすべきであるといったコメントのとおり、本シンポジウムを通して、アジア、日本が世界をリードしている現状が感じられた。日本の演者からは、日本で行われている切除不能進行胃癌に対する臨床試験や global やアジアで行われている臨床開発の全体像、日本で行われた早期開発試験がもとなった TAS-118(S-1+ロイコポリン)や TAS-102 の第Ⅲ相臨床試験、日本で先行して行われている抗 programmed death-1(PD-1)抗体の開発試験の状況、さらには抗 PD-1/PD-1 ligand(PD-L)1抗体以外の免疫チェックポイント阻害薬や oncolytic virus(腫瘍溶解性ウイルス)に至るまで、実に幅広い開発の現状が紹介された。

また、本総会初日のプレナリーセッションでは、2017年改訂予定の『胃癌取り扱い規約』および『胃癌治療ガイドラ



写真1 会場エントランスホール



写真2 ポスター会場の様子